

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600199		
法人名	有限会社 グットライフ		
事業所名	グループホーム あおきの里		
所在地	〒830-0224 福岡県久留米市城島町上青木262	TEL	0942-62-5375
自己評価作成日	平成 23年 9月 29日	評価結果確定日	平成 23年11月05日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	TEL	093-582-0294
訪問調査日	平成 23年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム あおきの里は平成18年10月1日オープンし5年に入っています。運営理念「福祉・人権・環境・平和・教育は皆平等の精神で地域社会に貢献できる介護施設を目指します。」という運営理念、「心こそ大切なれ」をモットーにスタッフ一同、和気あいあいと家庭的な雰囲気での介護を行っております。現在・男性職員・女性職員半々の割合で勤務しておりますが、男性職員の中に食事作りが大変上手なスタッフ、力仕事得意な職員、女性職員も絵手紙や踊り、花植えが好きな職員もおります。スタッフの年齢は20代～70代と幅が広く、それぞれの年代に応じた得意分野で実践しております。各それぞれスタッフ役割を持って委員会活動を行っております。また、どなたにでも入居していただけるように低料金設定させていただいています。地元のスタッフも勤務しております。社宅もありますので働きやすい環境であると思えます。また、スタッフは皆家族のように、和気あいあい、特に行事には力を入れて一致団結しております。スタッフの定着も良いです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「心こそ大切なれ」というモットーを前面に掲げ、多彩な特技を持つ職員達が多方面で活躍し、家族の一員として利用者と一緒に過ごす日々の積み重ねは、利用者一人ひとりの生きる力に繋がっている。自然環境に恵まれた中で、美味しい食事をたくさん食べ、看護師や主治医の連携と合わせ、利用者の健康管理は十分に行き届いている。利用者職員は、地域の夏祭り、ウォーキング、小学校の運動会等に参加し、ホームの行事には、ボランティアに参加してもらい、地域との交流は活発である。職員は、ラジオ・リズム・リハビリ・言葉体操や、散歩、買い物等で、利用者のやる気を引き出し、身体機能を維持する支援体制が確立されている。また、利用者や家族に出来るだけ負担をかけない料金設定で、いつまでも安心して暮らせるグループホームを目指している「あおきの里」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「福祉・人権・環境・平和・教育は皆平等の精神で地域社会に貢献できる介護施設を目指します」地域の皆様どなたでもご利用できるように理念をつくりあげている。毎日の申し送りで復唱し、職員一同確認をしている。また社員より相談事ある場合、円滑に生活ができるよう対応している。	「平等の精神に、地域社会に貢献すること」を理念に掲げ、ホームの見やすい場所に理念を掲示し、職員は毎日唱和することで、ホーム設立時の想いに常に立ち返り、実践に向けて目標を持って取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には夏祭りやウォーキング、小学校運動会に参加。地域の病院に受診している。今年度は地域の夏祭りには、「マルマルモリモリダンス」を演じた。	利用者と職員は、地域の夏祭りや小学校の運動会、ウォーキング等に参加し、ホームの行事に地域のボランティアが参加する等、交流の輪が広がっている。今年度は、職員有志による「マルモリダンス」が大好評で色々なところに呼ばれて披露し、喜んで頂いた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	さらに、事業所一同、認知症ケアについて理解を深め、地域の方々へ提供できるような体制をとっていききたい。相談がある場合は、その都度対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現況報告、入居者の状況、スタッフの状況等について話し合い、意見をいただいている。	会議は2カ月毎に各委員が参加し、要望、疑問、情報等、活発な意見交換の場になっている。また、出された意見は、次回の会議で報告出来るように努力し、会議がマンネリ化しないような工夫をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難なことがあるときは、市や社会福祉協議会に相談して、アドバイスをいただいている。今後もより密に連携をとっていききたい。	運営推進会議に行政職員が2名参加し、ホームの現状等把握してもらい、助言をもらっている。また、課題解決に向けて、直接担当窓口に出向いたり、電話相談等、連携の取れた関係である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの中やホーム内にも掲示している。身体拘束はもちろんのこと、心の拘束をもしないよう取り組んでいる。ミーティングでも、周知している。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、掲示している。職員は、拘束することで起きる弊害を十分理解し、身体拘束をしないケアを実践している。また、玄関のカギは日中は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	8月に「養介護施設従事者による高齢者虐待防止」研修会参加。職員ミーティングで発表を行った。高齢者虐待防止教育のテキストの中から、勉強会に活用し、虐待をしないように意識づけをしている。不適切な発言等みられた場合には、すぐに注意をし、教育をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームでも活用されている方がいる。また、活用されていない方でも、そのような状況にある場合には、社会福祉協議会に相談している。	職員は権利擁護に関する研修会に参加し、制度の資料やパンフレットを用意し、利用者や家族に説明し、制度が必要とする時の支援が出来る体制である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にも説明をし、納得した上で入居していただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員さんに月に一度来ていただいている。また、面会時でも、何かご意見やご要望はないか、ご家族等に呼びかけている。ご意見箱を設置している。	意見箱を設置し、苦情相談窓口を掲示、介護相談員の受け入れなど、家族が意向を表出できる機会を設けている。また、家族の面会時には出来るだけコミュニケーションをとるように努め、家族が、思いを言い易い雰囲気作りを心がけている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	幹部会・定期ミーティング・勉強会を行っている。その時に職員の意見や提案を活発に述べてもらっている。また、普段から話しやすい職場づくりに努めている。また、時折、ストレス発散食事会を設けている。	現場の情報を全員が共有するために、定期的に職員会議、勉強会を開催し、職員の意見が出やすい環境をつくり、意見を吸い上げ、その意見が反映されるように、幹部会で取り上げている。また、頻繁に食事会を開き、風通しの良い関係を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い、職員の要望を聞き、アドバイスをし次のステップアップにつなげている。職員それぞれの生活環境を把握し、勤めやすい職場づくりに取り組んでいる。退社時間になったら、すぐにタイムカードを押し、残業をさせない態勢声かけを行っている。子育て支援、シニア支援。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	当法人は年齢、性別、資格、経験は不問で募集を行っている。資格、経験がない方はヘルパー講習に行ける様な環境づくりにも努めている。また、職員の特技を活かし、おどりや絵手紙、花植えが得意な職員もいる。年齢もさまざま、20代から70代の職員が勤務。現在、男性・女性の割合は半分。	職員採用は、性別、年齢、資格、経験の制限はなく、勤務しながら、資格取得に向けた協力体制で支援している。また、職員の人間性や、特技を活かした介護の取り組みを実践し、職員が活き活きと働ける職場環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部の勉強会で学び、ミーティングの場で意見交換等を行っている。常に、入居者の皆様を尊敬、尊重して接していくように啓発している。外部の研修に受講できるようにしたい。	毎日理念を唱和し、利用者の尊厳について話し合い、外部研修を受講した職員による内部研修会で、職員全員が理解し、共有しながら、日々の利用者とのコミュニケーションに活かされている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や、資格、力量を把握し、外部研修に参加している。内部でも、実技や介護ディスカッションを行いスキルアップに努めている。さらに、充実していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括の研修会他、外部研修に参加し、交流の機会となっている。今後もさまざまな交流ができるような取り組みを行っていきたい。同業者からも空き状況の確認、問い合わせ等いただいている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	問い合わせから見学時においても、ご要望やお困りごとを伺い、ご本人、ご家族に安心していただけるように配慮を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせから見学時においても、ご要望やお困りごとを伺い、ご本人、ご家族に安心していただけるような配慮を行っている。見学時に、ご本人がご家族と一緒にいらっしゃる場合、話しの内容によっては、ご家族が安心してお話しができるように、ご本人には入居者と一緒にお茶を飲んでいただいたりしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの利用を必要とされる場合は、協議し対応を行っている。・権利擁護・福祉用具リース(自費)・福祉用具購入検討等。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の方とお話しし、また要望を取り入れている。できることは、無理をしない程度で、お手伝いをお願いしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子などご家族にご報告し、相談している。面会時は、居室でゆっくり話していただけるように配慮している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の病院、医院を利用されていた方は引き続き受診していただいている。そこで、知り合いの方と会われ、会話されるに入居者の方もいらっしゃる。	利用者や家族の希望を優先し、地域の病院受診の支援をしている。また、利用者の行きたいところ、会いたい人等、家族と相談しながら、馴染みの関係継続の支援をしている。昔の教え子や隣組の人達が、会いに来訪されている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いにコミュニケーションができるように、レクリエーションに取り組んだり、ほとんどの方がリビングで過ごされる方が多い。職員も間に入って、会話を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ホームに足をはこんでくださるご家族もいらっしゃる。時には、空き状況を確認していただいたり、野菜を持ってきてくださったり、牛乳の配達もしていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訴えを傾聴して、利用者の考えを否定しないように努めている。原則、担当でアセスメントを行い、利用者を把握。今以上に、利用者のことを考えて対応できるように指導していきたい。	職員は、利用者とは過ごす時間を多く取りながら、会話や、独り言等から利用者の思いや、希望を聴き取り、家族と相談しながら、出来るだけ意向にそえる支援をしている。また、アセスメント表にきめ細かく記録し、思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	見学時、入居前に 今までの生活のことをお聞きし、基本情報に記録している。新しい入居者が入られた場合、スタッフに申し送り、スタッフも把握できるように努めている。担当を決め、アセスメント、環境整備等行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	面会時にお聞きしながら、アセスメントし、現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議やミーティングの場で、現状報告、課題、対応、評価を行っている。スタッフの意見やご本人、ご家族の要望を取り入れ、介護計画の作成に取り組んでいる。いろんな要望が出しやすくなるように配慮していきたい。計画作成担当者のみでの計画作成ではなく、担当者やフロアスタッフとも協議して作成している。	利用者や家族の要望を取り入れ、関係者で検討し、介護計画を定期的に作成している。職員の視点から見た業務をこなすための介護計画ではなく、利用者主体の暮らしを反映した計画になっている。また、利用者の状態変化に合わせ、関係者や家族と相談し、その都度、見直しを図っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、伝達事項等、個別の申し送りノートに記入し、スタッフ一同閲覧できるようにしている。この申し送りノートより、日々の対応や、介護計画の作成・見直し等に役立っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具、権利擁護、金銭状況が厳しいときは、市や社会福祉協議会への相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活発な取り組みができるように、情報収集し利用していきたい。地域から、お花の先生が見えたり、地域行事に参加させていただいている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	見学时や入居前に、受診についてお話し、ご本人・ご家族の納得した病院・医院に受診するようにしている。	利用者一人ひとりの入居前の受診経過を把握し、利用者や家族の希望する医療機関の受診支援をしている。また、協力医療機関の定期的な往診や、緊急時の医療機関との連携等、充実した医療連携体制を確保している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の状態・状況、体調の変化を早期に見出し看護師へ逐一報告する。病院受診がどうかの判断は看護師が行っている。夜間でも何かあった場合は看護師に報告する。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適切な医療機関に受診できるように、看護師が判断し、協力医療機関や専門（整形・泌尿器科・皮膚・精神等）医院に受診。急ぎの場合で、判断に迷った時は、協力医療機関の看護師に相談している。往診の方は、何かあった場合は、往診医師に連絡して指示を仰いでいる。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度はお一人の入居者の看取り介護・看護に取り組んだ。ご本人・ご家族と十分に話し合い、看取りをさせていただいた。事業所でできることもご家族に伝え、往診医師との連携しながら対応させていただいた。	看取りの指針を作成し、利用者、家族から承諾を得て、ホームで出来る看取りの支援を説明し職員全員が、方針を共有し、協力医と連携を取りながら、支援していく体制がある。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各居室に、緊急時の蘇生方法のプリントを掲示している。救命講習に受講できるように、消防署へ相談している。緊急時の対応、観察について、勉強会を行った。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を2回/年行っている。夜間想定で行った。訓練時には地域の方、ご家族、ご利用者にも参加していただいた。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を消防署の協力で実施している。訓練には、地域の方や、家族の協力と参加があり、充実した避難訓練が実施できている。	非常災害時には、電気、水道、ガス、通信などが使用不可能になる場合を想定し、非常用食料、備品などを準備しておくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社の方針として、一番目に入居者の皆様・二番目にスタッフ・三番目に会社 この順番を忘れずに日々の介護に取りこんでください、とミーティングや忘年会の席でも職員に周知している。スタッフは入居者の皆様に天皇陛下や皇后陛下敬うようなお気持ちで接してくださいと伝えている。声かけや対応がまずい時は、その都度スタッフに指導している。	職員は、利用者一人ひとりのプライドを、傷つけないように、目立たず、さりげない言葉かけや、対応に配慮している。管理者と職員は、利用者の尊厳ある姿を具体的に現せるように支援し、個人情報保護法の理解や、情報管理の徹底を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で、希望や要望を伝えて頂けるように、傾聴しているが、今後も働きかけていきたい。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調を考慮し、日々の活動に取り組んでいる。ご本人のペースを大切にし、ゆとりとした生活ができるように配慮努めている。時には職員も時間にあせり、気持ちにゆとりがないこともある。あせらない、あわてないように職員の意識づけ、業務改善に取り組んでいきたい。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一回、訪問理美容に来ていただいている。入居者の要望をとりいれ、好きなヘアスタイルにさせていただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、葉を揃えてたり、ゆで卵をむいてもらったり、器具を使って混ぜていただいたりお手伝いをお願いしている。毎食後 お皿を拭いてくださる入居者もいらっしゃる。	テーブルにざるを広げ、いんげん豆の筋むきや小豆とりなど、利用者が生き生きと作業をしている姿が見られた。職員が愛情込めて手作りした食事を、利用者と職員が同じテーブルを囲んで皆で楽しそうに頂いている姿は微笑ましい光景である。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食記入、水分量観察把握している。入居者に応じた食事の形態で提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者の状態に応じて口腔ケアを行っている。ご自分で磨ける方は、見守りを行っている。口腔ケアをされたら、記録している。訪問歯科を利用し、義歯の手入れ等指導いただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意のある方は、トイレに誘導している。尿意のない方も時間をみて誘導している。排泄表に記入しパターンをつかんでいる。	管理者や職員は、利用者一人ひとりの排泄チェック表を正確に記録し、パターンを把握し、さりげない誘導で排泄の自立支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分強化、運動を促している。乳製品をとりいれられている。個人で牛乳を頼まれている方もいらつしやる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当ホームは1ユニット隔日で午後より入浴介助を行っている。午後に受診がある時は、午前中に入浴をすることもある。介助を2人体制で行っている。失禁や汚れたら、その都度シャワー等清潔の援助をしている。安全を考慮し、日中に入浴介助を行っている。	入浴は週3回であるが、利用者の状態や、ホームの行事等に合わせ、午後から午前中への変更や、中止したり、清拭やシャワー浴に変えたりして、無理強いすることなく、いつでも利用者本位の入浴の支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に応じ、午睡の支援、入眠の支援を行っている。なかなか眠れない方は、リビングで過ごしていただいたり、間食をとっていただいたり、テレビなど見て過ごしていただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、薬の目的や副作用まで理解しているとは言えない、また、一包化している薬も多くどの薬か把握できていないことがある。個人個人の薬シートに薬を貼り、服薬介助した人のサインを記録している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別リハビリや、大正琴、お手伝い(茶碗ふき、洗濯物たたみ等)、習字、塗り絵、貼り絵等していただいている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外を眺めれば安心される方、公園を散歩したり、外食にお連れしたりすることもある。ご希望に沿って対応できることは対応し、ご家族にも報告させていただいている。地域行事にも参加させていただいている。	職員は、利用者と散歩や外食、買い物、病院受診を兼ねたドライブ等、気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として、支援をしている。また、地域の行事と一緒に出かけ、利用者の心身の活性化に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少ない金額でも、御自分でお金を持つことに安心される方は所持されている方もいらっしゃる。買い物は、預かり金を持って支払えるように支援することもある。入居者の多くは、できない方もいらっしゃる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望があった場合はご家族へ相談、了承を得て、自ら電話される方もいらっしゃる。ご家族の負担にならないような支援、対応を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた掲示物、レクリエーション、テレビのボリュームやカーテン、気温等その時の状況に応じた対応している。	季節毎のプランターの花や、畑で採れる野菜等、利用者が季節を感じる取り組みや、ホーム内に、利用者と職員の手づくりの壁飾りや写真等の掲示物で、家庭的で落ち着いた雰囲気を出し、居心地良く過ごせる共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士で話される場面もよくみられる。時には事務所(相談室)で、雑誌を読んだり、ゆっくり過ごしていただいている。、居室で話しをされることもある。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のものは、すべてご家族、ご本人に持ち込んでいただくようにしている。以前から使われているものでよいことを見学時に説明している。なじみのタンスや仏壇を持って来られていらっしゃる。	居室は、利用者が、使い慣れた馴染み筆筒、テレビ、茶碗や箸等を、家族と相談して持ち込んでもらい、違和感のない、その人らしい暮らしが出来るように支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や階段、トイレ、脱衣所に手すりを設置している。また、玄関前にはスロープ、手すりを設置、リハビリも行える。		